［釈文］

弘化四丁未年三月二十四日夜亥刻頃信濃国七郡
大地震にて城下在町の民家一時ニゆり潰し即刻出火所々
焼失圧死焼死不知数同刻山平林字岩倉虚空蔵山崩れ
犀川に落入川上村々水湛ミ湖のことく丹波島河原水
渇て陸のことし渉るに踵をぬらさす其外所々山沢崩落
て水行不通四月十三日申之下刻一時に秡出シ波高き
事数丈水声雷のことく川中島より千曲川辺民家
尽く漂流し溺死するもの幾千といふをしらす扶桑略記曰
光孝天皇仁和三丁未年七月晦日信濃国大山頽崩六郡
城□［墟ヵ］払地漂流牛馬男女流死成丘云々自仁和丁未至弘
化丁未こゝに九百六十一年又如斯天災を見る唯当国
の人のミにあらす善光寺如来開扉によりて諸国の旅人
数を尽して死失す　附ていふ
遠境の諸友より右の実説を問ふ事しは〳〵にて
いち〳〵筆にまかせかた（ママ）きをもてあらましをしるして
梓にものするになん尚足らさるハ見る人ゆるし
為へ　　稲荷山住　宮匠
（朱書）
ミな月末つかた彫成いまた昼夜に
五七度震やます